

教育課題検討委員会 第7回 議事概要（公開用）

平成 29 年 8 月 2 日(火) 19:00～21:00

総合福祉センター 3 階講習室

出席者： 検討委員、事務局

（課長補佐）

ただいまより、第7回教育課題検討委員会を開催いたします。はじめに、教育長よりご挨拶申し上げます。

（教育長）

今回も、どうぞよろしくお願いいたします。第6回の教育課題検討委員会6月21日に行われたのですが、内容を整理してペーパーでお手元にお配りしています。まず、あるべき姿を実現するために適正配置、幼稚園小学校それぞれで、1園から現行4園まで、前提となる条件を把握していただいたうえで、あるべき姿は、子ども、保護者、教職員、そして地域の視点から考察・評価を加えて、可視化・図表化して、適正なものとはどれかということを探りました。委員の皆さまには「私が考える現時点での適正配置」ということをお話いただきました。

幼稚園で言えば、「1園案」が多かったように思います。「将来的には園児数減少が避けられない」「段階的な再編では歳出が多くなってしまう」「充実した施設、設備、教職員の体制が整えられる」ということで、1園を支持される方が最も多かったように思います。また、「2園案」についても、「小学校は2校が良いと思うので、幼小の連続性を考慮して2園にしては」という意見もあがりました。

小学校については、「2校案」を推す声が多かったように思います。「一定規模の人数から考えれば2校案が適正ではないか」「中学校は1校なので、小学校はせめて2校あれば学校間での切磋琢磨ができる」「1校でまとめると大きすぎる」という理由があがっておりました。「1校案」の意見もありました。「2校から1校へという過程を踏んで再編していく場合は効率が悪い」「2校では、学校の設置場所で地域の合意を取りにくい」ということでした。

次に、骨子案についてですが、「幼稚園と小学校の項目を分けた方がよい」という声が上がっていました。

最後にアンケートの実施ということで、今回の検討委員会で具体的に考えていくということで、幼稚園・小学校のあり方に関わるアンケート調査を実施することで、町民の考え方を引き出し、これからの審議の参考に、また、アンケートをすることによる周知効果、議論を広げる目的で、実施する方向で検討していこうというになりました。

これを受けて、第8回の教育課題検討委員会をはじめて行きたいと思いますので、

どうぞよろしくお願ひします。

(会長)

今日は、議事に入ります前に、出席者について、皆さまに報告と了解をいただきたいと思ひます。まず、検討委員の代理としまして、白方幼稚園長に参加いただひております。

(代理委員)

よろしくお願ひします。

(会長)

もうお一方ですけど、意見聴取者として、アンケート調査に関わっておられます委託事業者であるジャパンインターナショナル総合研究所の方にご参加いただひてよろしいでしょうか。はい、ではお願ひしたいと思ひます。

(意見聴取者)

よろしくお願ひします。

(会長)

それでは、議事録の要約がお手元に配布されておりますので、少し目を通していただきまして、何かありましたらご指摘いただきたいと思ひます。なお、この議事録は公表を前提としております。では、お帰りになってお気づきの点がおありでしたら、事務局まで1週間以内でお知らせいただければと思ひます。

それでは、議事に移ります。今回はアンケート調査の実施についてが、検討の軸となっております。概要を事務局より、また内容をジャパン総研よりご説明いただければと思ひます。では、まず事務局より実施概要をご説明いただければと思ひます。

■ 事務局説明

(会長)

はい、ありがとうございます。内容については、この後、ご説明いただけるということですね。

(委員)

保育所、幼稚園、小学校の保護者についてはお知らせを配布していただくということですが、アンケート調査票自体も併せて配付するということですか。もう一方は、郵送と書かれていますが、配付方法が書かれていませんが。

(主任主事)

事務局内でも協議はしていたのですが、学校の方に事務的負担を強いたくないということと、第1子に限定して、お子さんを数人持たれている方が重複回答しないような配付をしたいので、煩雑になる部分もございます。そこで、お知らせのプリントだけでも学校から配付していただくだけで、ある程度の周知となって、調査票は郵送で配付させてもらう方が学校の負担が少ないかなということで、協議中です。

(教育長)

今のところは、その方法で。これについて、もっと良い方法があるとか、委員の皆さんからご意見がいただければと思います。

(会長)

重ならないように第1子だけということですが、第1子が中学校以上の場合は、どうなりますか。

(主任主事)

その場合は、その下の保幼小に在籍する最年長の子ども名前で郵送します。

(会長)

わかりました。9月の広報誌でも周知するということですが、町の広報誌は9月からの配付ですか。

(委員)

8月末です。

(会長)

幼稚園小学校は、今は夏休みですから、プリント配付は9月になりますか。前回では、アンケート開始が8月末ということでしたが。

(主任主事)

はい、そう提案していたのですが、現実的に周知関係を考えると9月1日の発送になると思います。

(委員)

自治会の回覧でも、このお知らせをしてくれるのですか。

(主任主事)

はい。同内容のもので、考えています。

(教育長)

ホームページとか、それも自治会配付と同じ内容でお知らせを掲載する予定です。

(委員)

それも、自治会回覧に書いてくれば。「ホームページに載っていますよ」とか。

(委員)

配付方法は郵送にすると、返ってくる数が、ちょっとどうかなという感じはするのですが、でも、それぞれの園なり、学校なりの事情を考えると、仕方がないのでしょうね。保護者は、書いたら渡したところに返してくるでしょうから、回収もそれぞれでやらなくてはなりませんから。

(課長)

ここに示した以外のやり方としては、各保・幼・小のほうに、周知文とアンケートを合わせて配付するという手もあります。提出は、返信用の封筒を入れますので、それをポストに入れてくださいね、ということで。いずれにしろ、学校から配っていただく方法が、回収率が最も高いとは思いますが、個別に児童の名前の書いたものを、学年別、クラス別、しかも兄弟がいる場合は除外するという作業があるので、それを学校にお願いするとしたら、事務が煩雑になってしまうという点がございます。おっしゃるとおり、郵送でのやりとりとなると、回収率は低くなることは予想されます。

(委員)

しかし、それは学校にも将来のこととして関わることだから。どうだろうか。

(委員)

私はできると思います。よく、生徒が保護者にプリントを渡さないということは多々あるのですが。大事な文書だからと言って持って帰らず。

(教育長)

それは、学校で配付回収するという事かな。

(委員)

私は、皆さんがその方が良く考えるなら、学校としては、やるべきだと思います。ただ、それぞれの校長先生のお考えがあるだろうから。

(委員)

私もそう思います。幼稚園や小学校や保育所から配った方が、保護者にとって、よりわかりやすいし、効果的でないかなと思うのです。

(課長)

実際に、今回のアンケートとはちがいますが、5年に一度、人権関係のアンケートをさせていただくのですが、その時は1子2子関係なく全員に配って、重複する場合は回答者に封筒に『重複』と書いてもらって返してもらうのですが、ほぼほぼ100パーセントに近い数字で回答していただけるので、方法としては一番、回収率が高いのだろうと思います。

(会長)

すみません。少し話がそれますが、無記名で回答していただく、しかし、住所や年齢は問う項目がありますよね。そうすると、保護者宛として配ると、宛名は父親が多いと思うのですが、実際の回答者は母親、つまり女性が多くなるのではないかと思うのですが。無作為の方は、無作為でその宛名の方に回答していただけると思うのですが、保護者の場合は回答者の男女の割合がおかしくならないでしょうか。

(意見聴取者)

はい。ひとつずつコメントさせていただきますと、先ほどの話に戻りますが、学校での配付回収が一番回収率が高いです。かつ、他の自治体で良くある方法ですと、配付の際は、一先ず全員に配って、回答は第1子の担任の先生にのみお出してくださいというのが多いです。次に、宛名と回答者の比率の件ですが、他自治体の場合、保護者に対してのみのアンケートというのが多くて、多度津町さんのように地域の方にも同じ内容のアンケートをするといった例はあまりありません。ただ、この際に、子どもを含めた世帯へ回答を求めるというかたちで、男女比をあまり意識して、例えば保護者の中で男性はこういう回答をした、女性はこういう回答をしたという分析はしていません。

(委員)

学校から配るのであれば、昨年度から、学校配信メールも導入していただいているので、保護者へお知らせするという意味では、そちらも活用しながら行っていきたいと思います。

(委員)

保育所は、保護者が送迎ですので、顔を見て伝えることができますので。

(委員)

小学校とか、幼稚園・保育所に協力していただく方が良い。

(教育長)

あまり負担をかけたらいかなあと思うところがあったので、最初の方法を示しておったのだけでも。

(委員)

これくらいの事務でしたら、学校にとって大負担まではならないので、やらなくてはならないと思います。

(会長)

対象の、保護者の方全員というのは、現在の保育所・幼稚園・小学校の保護者ということですが、これはむしろ今後の問題ですよね。そうであれば、これより若い、幼い子どもの親御さんは、無作為抽出の中に含まれて、一部の人がピックアップされるだけということの良いのでしょうか。

(委員)

その方たちも、全員対象とすべきですかね。

(会長)

渡し方としては、郵送になるのでしょうか、その方が良いと思います。思いつきで申し訳ございません。

(主任主事)

それも住民票からの抽出ですので可能です。ただし、無作為対象とした保護者以外の地域の対象者数を減らさせてもらうことになります。

(委員)

それは仕方ない。

(会長)

予算確保されているから、2,000名はこれ以上増やせないということですね。

(教育長)

おっしゃるとおりです。2,000名の枠は広げない方が。

(委員)

幼稚園・保育所に行っていない子どもですが、プラスアルファの数は、そこまででないでしょう。第1子が、就園就学している場合もありますし。

(委員)

まとめると、小学校以下の子どもさんがおられる家庭は全員当たるということですね。

(委員)

中学校に上がってれば、あたらないということですね。中学校の生徒の親御さんは、一般の地域枠として無作為抽出にあたるかどうか、ですか。

(教育長)

一般の地域枠の対象者が減ることで、保護者と一般の割合が変わって、分析に支障などは出ませんか。

(意見聴取者)

アンケート調査票自体が、一種類で同一ですので、特段問題ないと思われます。

(会長)

では、よろしいでしょうか。アンケートの内容について、ジャパン総研さまよりご説明いただければと思います。

■ 意見聴取者説明

(委員)

少し疑問な点があります。学級の人数の記載で、「人」と「名」が混在していますが、何か意図があって使い分けをされているのでしょうか。

(教育長)

法令は、「人」で行っているね。学級編成の単位は。

(委員)

「人」ですね。「〇〇人以上をもって・・・」と表記されています。

(教育長)

「人」に統一させてもらいます。

(委員)

7 ページ、9 ページの幼稚園小学校の重要だと思ふ役割についてですが、選択肢をそれぞれ、子どものことであるとか、地域のことであるとかに並び直して、幼小同じ順番にしていた方が良いと思います。あと、1 2 ページの小学校の通学距離については「スクールバス等の通学手段」について言われていますが、それだったら、幼稚園の間の選択肢にも理由を入れたほうが良いと思いますが。例えば「保護者が送迎をするため、通園時間や距離にはこだわらない」とか、そういう風にしたらどうでしょうか。

(意見聴取者)

はい。7 ページ、9 ページについては、事前の協議の中で委員さんをご指摘のように直す方向です。お手元に配っているものに、反映ができていなかったと思われま

(主任主事)

スクールバスの件ですが、今の池内委員さんのご指摘の趣旨では、幼稚園の選択肢にもスクールバス等の通学手段を入れたほうが良いということでしょうか。

(委員)

いえ、そうではなくて、これまでも幼稚園は親の送迎が原則で、スクールバスの話は検討委員会でも出ていなかったと思います。

(会長)

逆にスクールバスのことを書くと、幼稚園でもスクールバスを検討しているのかなと取られかねませんね。

(委員)

中には、幼稚園が遠くなった時に車で送らなくてはいけないのは嫌だという方もいるかもしれない。それを前提に考えると、「保護者が送迎」というのは、わかりきっているから書かないよりも書いた方が親切だと思います。

(委員)

近くであったら、一緒に歩いてくるかもしれないし、自転車かもしれない。なので、必ず車ということじゃないけども、「保護者が送迎」という書き方が適切だと思います。

(教育長)

このアンケートについて、予算をいただく関係で、議会の方にもお示しをして、意見をいただいたのですが、その中で、1ページ、表紙のところのアンケートのお願いの文章の中にある「統廃合」という言葉が、あまり全面に出ないほうが良いのではないかと、この部分を削除する方向にしようかと思っています。

(会長)

皆さん、いかがでしょうか。私としては、国の方針があり、町の内外、全国的な統廃合の必要性が、自然に盛り込まれているなどは思ったので、この内容に関してはあっても良いかなとも思ったのですが。

(委員)

この文章で、そこまで、という感じはします。それに、次のページからの子どもの数が減るといふグラフを見ても、やはり統廃合がやむを得ないのかなというの、必然的にわかると思います。

(教育長)

そのこと自体は、読み取っていただきながらわかってもらえるのですが、その前段で、統廃合という言葉が出ておることが、指摘をされているという状況です。

(会長)

であれば、再編という言葉は、残しても良いのでは。

(委員)

議会では、かなり強く指摘をされていまして、中身としては再編に向けたニーズ調査ということですが、教育長の言うとおりの、書かなくても意図していただけるものであると思います。

(会長)

わかりました。あと、無作為抽出ですと、高齢の方も入ってくると思いますので、4ページの年齢層を聞くところ、70歳以上でまとめてしまうのは、大きすぎないかと思いますが、これでいいのでしょうか。これまで行われた他のアンケート調査で、そのあたりはいかがですか。

(委員)

高齢化率でいうと、30%ほどが65歳以上ですからね。18歳以下や保護者が、抽出条件に入らないなら、無作為の半数以上が高齢者になるかもしれない。

(意見聴取者)

わかりました。上限は80歳以上でまとめて、70歳代は、他と同じように5歳刻みの年齢区分を選択していただきます。

(課長)

すみません、ジャパン総研さんにお聞きしたいのですが、冒頭に、会長がお尋ねした無作為は回答者を指定して、一方で保護者は母親が回答するので、女性が多くなるということについては、分析の際どうなりますか。

(意見聴取者)

どちらの意見を聞きたいかにもよりますが、我々としては、男性の傾向と女性の傾向を分けたいところは、分析の際に選別をかけますし、実際に子ども子育て計画の際のアンケートも8割以上の方が母親の回答でした。ですので、保護者の回答を、こちらから父親と指定や限定はせずに、父親が回答をしてくれいて、その数がどれくらいであるとか、また、興味深いデータになるのではないかとも思います。

(委員)

難しいと思いますね。生徒に渡して家庭に持って帰ってしまえば、先ず確認するのはお母さんが多いですかね。その後、お父さんの手に渡って回答されるのかとかは、家庭の判断になりますからね。

(会長)

他に何かございますか。では、この内容で実施していただこうと思います。

(委員)

すみません、アンケートとは関係ないのですが、若干気になったところで、学校毎のデータが3ページにありますよね。例えば、児童数で多度津小学校が292名、四箇小学校が317名おり、教職員数が32名と28名。この数字に、どこまで含まれておられるのかがわからんのですが、県費負担教職員プラス町費の先生も入れられておられるのだらうなと思いますが、一般の方がパッと見たら、児童数に対して多度津小学校の方が、職員が多くて優遇されているじゃないかと感じられる方もおられます。これは、給食センターの栄養教諭や栄養技士が多度津小学校に籍を置いています。それと、加配教諭の中に、通級指導担当、多度津町のすべての学校を巡回される方がおり、その方については、多度津小学校に席があって、巡回指導の他は、多度津小の仕事の比率が多いとは思いますが、そこで3名の差が出ている。あとは特別支援学級の数。実際、そういう誤解が、昔からあるのですよ。

(委員)

その人数を初めから抜いておくべきですか。

(委員)

いえ、そうではないです。

(会長)

確かに委員がおっしゃった誤解が生じる可能性があります。例えば、注釈をつけるとか。

(委員)

つけたほうが良いと思います。確かにね、白方小学校が6学級で職員が19人いて、四箇小が12学級で倍あるのに、職員数が28人という部分も単純に計算すると、なぜこんなに、という見られ方も、一般の方ならありますから。

(委員)

管理職の他に、学校事務や養護教諭は必ず1名置かれますので、児童が半分なら、職員も半分ということは、当然なりませんから。

すみません、私が言ったのは、もし、そんな意見が町民の方からあったときに、適切な回答をしていただけたらという希望です。たぶん、注で入れても読まない人は読まないし、職員配置について、そこの一文だけで、すべての方が理解してくれるとは限らないでしょうから。

(教育長)

確かに、前の校区の見直しのときに、豊原と多度津を比較するかたちになったのですよ。その時は、その意見を言われる方はいました。

(委員)

では、職員3名分を減らして表記してはどうですか。

(委員)

引かない方がいいですね。そうすることの理由が希薄な気がします。データは正確を期することが一番ですから。それと、この学級というのは、通常の学級と表記されていますから普通学級を指していますが、児童数292名の中に、特別支援学級の児童が内数として入っていると思います。それも、この職員数に影響している。

(教育長)

それと別ですが、ちょっといいですか。今、教員数については、委員が言った理由があって、そういう数字になっておる。もうひとつ、学級数というのは通常の学級だけであって、特別支援学級も入れるべきではないですか。

(委員)

文科省の学校規模の標準を見るときに、特別支援学級は含めていないのでは。

(教育長)

12学級というのは、普通学級だけです。小学校の現状を知ってもらうときに、特別支援学級が3学級あるなら、そのことをここで書くべきではないですか。

(委員)

ただ、総数にして15学級と書くことは、何かちがいますね。

(委員)

学校規模の話をするときに、特別支援学級を入れると複雑になりすぎませんか。

(教育長)

特別支援学級が除かれているというのが気になってですね。

(委員)

これを見ると、多度津小学校と四箇小学校は全学年2学級であり、白方小学校が全学年1学級であるのがわかりますよね。それなのに、特別支援学級を含めた数字を書いてしまうことは、かえってわかりにくい。どうしても、それが気になるのであれば、その横に、普通学級がいくつ、特別支援学級がいくつというのは書かなければなりません。

(会長)

書くとしたら、そのようにするか、もう1項目追加するかですね。

(委員)

書いた時に、それを一般の方が、きちんと読み取れるかなというのが心配です。

(委員)

カッコ書きで「特別支援学級を除く」としては。

(会長)

除くという書き方は、イメージが良くないでしょうね。

(委員)

一般的に、支援学級の保護者の感覚でも、支援学級に所属しているという意識より、交流学級となる普通学級の西組である、東組であるという意識があります。なので、そこから、このデータに普通学級しか表記されていませんよ、という指摘されることはありません。

(会長)

では、特別支援学級を表記するか否かは事務局に一任したいと思います。先生の数については、アンケートに影響が少なからずあるのかと思いますが、委員いかがですか。

(委員)

回答についての影響はないと思います。この児童数の傾向や現状から、将来こうなったらいいと考えて答えていただければよいので、町民から質問があったときに、きちっと返せるようにしていただければ構いません。

(委員)

私は現状よりも、将来の人数予測がこれだけ深刻なのだから、これを一番に出しても良いと思う。

(委員)

今の人数を、どう思うかを問うところもあるし、比較もしないといけないので、現状を表しておかないといけないと思います。

(会長)

よろしいでしょうか。では、事務局にお返ししたいと思います。

(課長補佐)

会長、ありがとうございました。では、次回の日程ですが、10月の中旬あたり、第3週でいかがでしょうか。17日でよろしいでしょうか、では、よろしくお願いいたします。

以上、散会